

日本被団協のノーベル平和賞受賞に敬意を表し、核兵器のない世界に向けてよりいっそう努力します

2024年10月16日

社会医療法人健和会／飯田民医連労働組合／伊那谷健康友の会

今年のノーベル平和賞は日本原水爆被害者団体協議会（被団協）が受賞することになりました。被団協の皆さんの長年にわたる草の根運動が実を結んだものとお喜び申し上げると同時に、私たちも核兵器廃絶への決意を新たにすることです。

被団協代表委員の田中熙巳さんは、受賞理由について「核兵器が使用される危険な状況にあるため、ノーベル委員会は米国に気兼ねしている状況ではないと判断し、日本被団協に平和賞を与えたのだと思う」と述べ、「核兵器をなくす運動は被爆者の問題ではなく、人類の問題だ」と訴えました。

日本は「核抑止力」の名のもとに米国の「核の傘」への依存を強め、唯一の戦争被爆国でありながら2021年に発効した核兵器禁止条約に署名・批准していません。被爆者の平均年齢は85歳を超えました。次世代が決意を受け継ぎ運動を発展させなければなりません。

私たち健和会は1985年から始まった「ヒロシマ・ナガサキからのアピール」国際署名運動や毎年開催される原水爆禁止世界大会への職員派遣、原水爆禁止国民平和大行進への参加など、核兵器廃絶の運動を行ってきました。今後とも日本の核兵器禁止条約参加を求めるなど、核兵器のない世界に向けてよりいっそう努力します。

以上